



注目ポイント

- ✓先週の日米中銀ウィークは、事前の予想通り双方が政策金利の据え置きを決定。注目された日米中銀両トップの会見では、「利上げできない日本」と「利下げできない米国」という構図が確認され、円安ドル高が進行した。しかし、週末の米雇用統計(7月)が予想を超えた悪い結果(さらには5月と6月の就業者数も大幅に下方修正)となり、様相が一変。米景気動向への警戒からドル売りが幅広い通貨に対して膨らみ、米国市場では株式相場も大幅に下落する展開に。
- ✓今週は、この雇用統計ショックを受けて、世界的にリスクオフ(株安・債券高=金利低下)の流れになると予想。米国の景気悪化が鮮明になれば、利下げに慎重なFRBに対して「出遅れ」批判が強まる可能性もある。昨年夏も雇用統計の悪化で、FRBは最終的に同年9月に0.50%の大幅利下げを迫られた。トランプ大統領の政治介入も一段と強まろう。(門倉英司)

2025年7月28日 ~ 2025年8月1日

市場・指標			7月28日 ~ 8月1日		8月1日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	日本	日経平均(円)	41,534	40,557	40,800	-657	-1.6%	
	米国	NYダウ(ドル)	44,947	43,341	43,589	-1,313	-2.9%	
	ドイツ	DAX(ポイント)	24,444	23,381	23,426	-792	-3.3%	

市場・指標			7月28日 ~ 8月1日		8月1日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利(国債)	日本	10年(%)	1.585	1.530	1.555	-0.045	
	米国	10年(%)	4.42	4.20	4.22	-0.17	
	ドイツ	10年(%)	2.74	2.64	2.68	-0.04	

市場・指標			7月28日 ~ 8月1日		8月1日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	米ドル(円)		150.92	147.30	147.40	-0.29	
	ユーロ(円)		173.97	169.73	170.79	-2.57	
	豪ドル(円)		97.29	95.11	95.41	-1.56	

市場・指標			7月28日 ~ 8月1日		8月1日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	日本	東証リート(ポイント)	1,868	1,827	1,867	+40	+2.2%	
	米国	NY原油(ドル)	70.51	65.05	67.33	+2.2	+3.3%	
		NY金(ドル)	3,417	3,319	3,400	+7	+0.2%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。 休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2025年8月4日 ~ 2025年8月8日

● 株式

下値を模索する展開か

 日経平均
【予想レンジ】 38,500 円 ~ 40,800 円

- 先週の日経平均は下落。前週の大幅上昇後の高値警戒感や利益確定売りに押され、週初から軟調地合いの展開に。31日には、日銀が政策金利据え置きを決め、米ハイテク株高も追い風となり4万1,000円台まで反発したものの、週末には東京エレクトロンの業績予想下方修正を嫌気した半導体関連株の急落から再び反落して取引終了。
- 今週の日経平均は、下値を模索する展開か。週末の米雇用統計を受けた米景気悪化懸念や、米利下げ観測の高まりを背景とした円高ドル安が、株の売り圧力を強める可能性が高い。また、予定されている国内主要企業の決算発表(8/4:三菱UFJ、8/7:ソフトバンクG・トヨタ等)が予想を下回った場合には、大幅な下落に発展する可能性も。

● 金利
(国債)

低下余地を探る展開か

 10年国債利回り
【予想レンジ】 1.450 % ~ 1.570 %

- 先週の国内金利は低下。前週の金利急上昇の反動から、低下傾向で迎えた注目の日銀会合だったが、結果は大方の予想通り「政策金利据え置き」に。また植田総裁の会見を受けて、「早期の利上げを織り込むには追加材料が必要」との見方が広がり、週末には10年国債利回りが、一時1.53%まで低下する場面もあった。
- 今週の国内金利は、低下余地を探る展開か。日銀の早期の追加利上げ観測が後退し、また週末に米雇用統計の悪化をから、米金利が大幅に低下したことを受け、引き続き金利に低下圧力がかかる展開が予想される。しかし、国内では政治不透明感から財政拡張政策を背景とした金利上昇懸念も燃えている。新発国債入札(5日:10年、7日:30年)で、実際の需給状態を確認したい。



 為替
(米ドル)

円強含みのもみ合いか

 米ドル/円
【予想レンジ】 145.00 円 ~ 148.00 円

- 先週のドル円は、小幅に円高ドル安が進展。週末の東京時間までは、米EU関税合意や好調な米GDPを背景に、またFOMCでパウエルFRB議長が利下げに慎重な姿勢を示したことから、断続的にドル買いが進み、一時1ドル=151円手前まで上昇。しかし週末のNY時間に、米雇用統計が想定を超えて悪化したことを受け反転し、一気にドル売りが優勢となり、結局は前週末比円高ドル安となった。
- 今週のドル円は、円強含みのもみ合いか。FOMCを通過して一旦後退した早期利下げ観測だったが、先週末の雇用統計を受け様相が一変。9月の米利下げ再開を織り込む形で円高ドル安が進む展開となろう。ただし、米国の景気悪化が鮮明になると日本の利上げが遠退くとの連想から、円金利の低下が進む可能性もあり円高余地は限定的か。

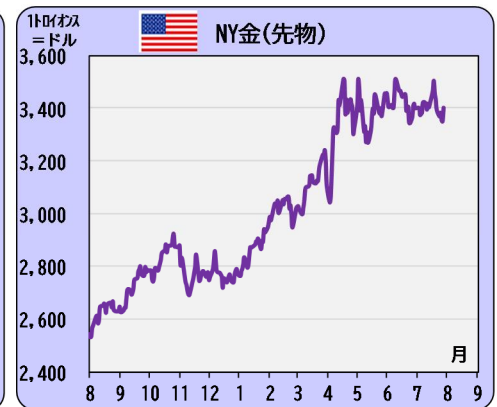
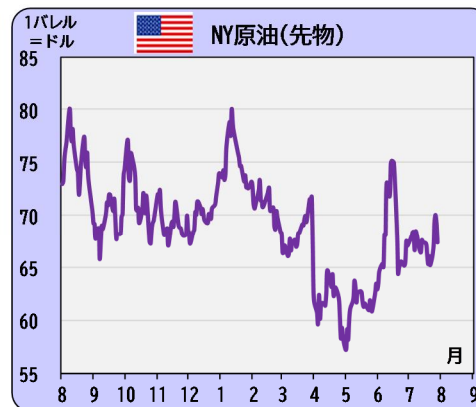
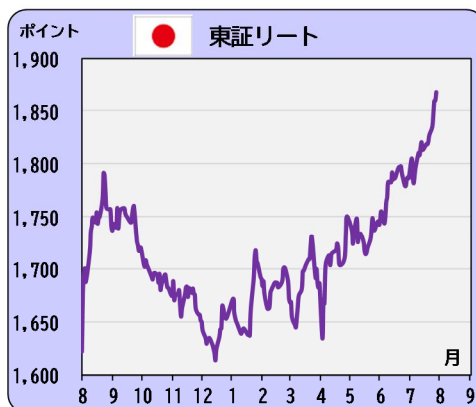
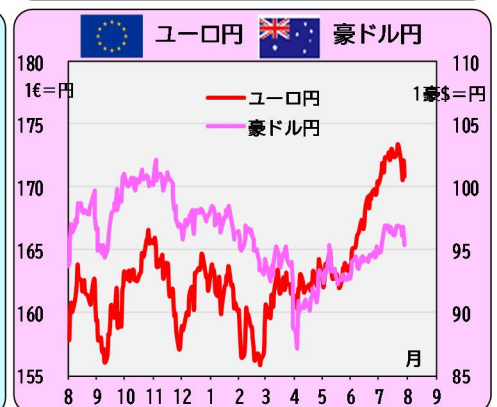
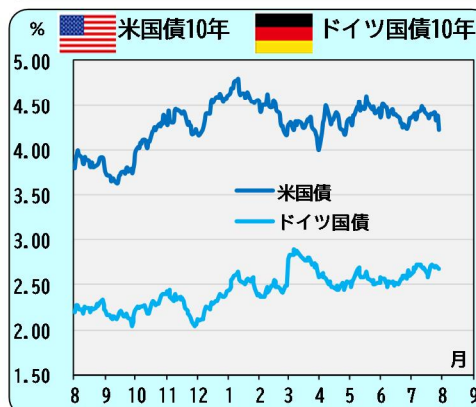
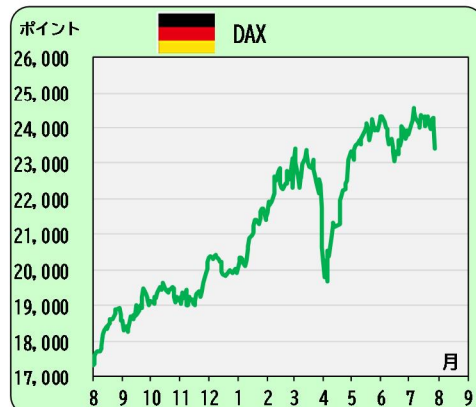
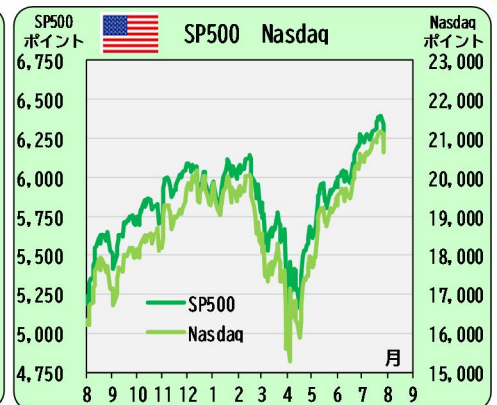


○今週の注目標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月 日	国 内	海 外
8/4(月)		
8/5(火)	日銀金融政策決定会合議事要旨(6月開催分) 国債入札(10年)	米国: 国債入札(3年) 米国: ISM非製造業景況指数(7月) 米国: 貿易収支(6月)
8/6(水)	毎月勤労統計(6月)	米国: 国債入札(10年)
8/7(木)	国債入札(30年) 景気動向指数(6月)	米国: 国債入札(30年) 米国: 消費者信用残高(6月)
8/8(金)	日銀金融政策決定会合主な意見(7月開催分)公表 家計調査(6月) 国際収支統計(6月)	

③その他チャート集

直近1年間



※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PBR	株価純資産倍率
CTFC	米商品先物取引委員会	FTA	自由貿易協定	PCE	個人消費支出
CPI	消費者物価指数	GDP	国内総生産	PER	株価収益率
ECB	欧州中央銀行	IMF	国際通貨基金	PMI	購買担当者景気指数
ETF	上場投資信託	IEA	国際エネルギー機関	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
EU	欧州連合	ISM	米供給管理協会	SQ	特別清算指数
FDI	海外直接投資	OECD	経済協力開発機構	TPP	環太平洋経済連携協定
FF	フェデラルファンド	OPEC	石油輸出国機構	WSTS	世界半導体市場統計
FOMC	米公開市場委員会	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み	WTI	ウェストテキサスインターメディアート(原油)

●ご留意事項

- 本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客様ご自身でなさるようお願いいたします。
- 本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いいたします。